

「幸福の道」

「人類完成の喜び」より
人は幸福とは何んであるかを知り、幸福への道を知ることにある。人間の知識でつくり出した不幸を神の道で幸福に転ずる大教のあることを覚り、この大教にあづかることに感謝し、その大教を実践する決意を抱くことにある。

人間の生命も、人生五十年といわれた短い生涯から、今日では男子平均寿命六十五才、女子七十二才(昭和四十年 七月発行)となっているが、精神文明の時代となれば寿命は長くなる。肉體には栄枯盛衰の消長はあっても精神の方は老いを知らず、衰えることはない。信仰のある人が長命を保っているのはこの理によるのである。信仰者の靈は死んでも神に近い眞實の靈界(幽界)に生きるものである。死は人生に免れ得ない宿命であるが、死は少しも悲しむべきことではない。體は靈の容れ物であり、生命の容れ物である。己の靈魂の養成所・修行場所である。靈は永遠の大生命に生きる。この靈に生きる精神生活こそ、人生幸福の秘訣である。

この幸福は宇宙の道を知る以外には得られない。道が生命であり、眞理であり、幸福の源泉である。我を折って正しく心の向きを変えるならば、靈智靈覚者とまでは進まなくとも、自分の周囲を通じて神が道を教え給う。或いは人の口をもって語らしめ、或いは目に入る諸々の現象の中に神の御意こころを告げ給うのである。これを受取る修行を怠らず精神的に進むならば、靈は強められ、感を得て大徳にあづかり得るのである。木でも虫でも一輪の花も、何か人に告げている。心にこだわる物を除いて、静かにこれを観るならば何物かを受取ることが出来るのである。大自然の神秘に触れ、物事を奥深く極めて行く態度こそ、神人一如の境に達する修行である。その修行のなかに無上の幸福感を味わうことが出来るのである。